

平成30年度使用小学校用教科用図書
調査研究報告

桶川市教育委員会学校支援課

平成30年度使用教科用図書 調査研究報告書

教科名	道 徳	東京書籍 東書 2
<p><組織・配列・分量について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料数37（内容項目1は9つ、2は8つ、3は11、4は7つ） ・配列・分量が適当である。 ・読み物教材の配列に工夫がある。 ・学習を進めるための4段階が示されていて、1単位時間の学習の進め方が分かり見通しをもちやすい。また、一年間の見通しがもてるような工夫がある。 <p><内容について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えの柱と自分を見つめ考える項目が明記されている。 ・話し合いの約束が書かれている。 ・学習の振り返りが記録でき、道徳的価値が深められるようになっている。 ・主人公の気持ちを問う発問と振り返る発問が1つずつある。 ・「学習のふりかえり」のページを設け、児童が感じたことや考えたことを短い文でまとめて記録が残せるよう工夫している。 ・低学年から中学年は、文章の前に児童への問いかけがあり、読む前に考える視点が定まりやすくなっている。高学年は、問いかけが文章の最後に載っており、資料を読んだ後に、ねらいに迫ることができる。 <p><学習指導要領の教科の目標を達成するための工夫について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学年に、人とのかかわりの中で考えることができる学習活動のページがあり、人間関係を築くことを重視している。 ・児童が問題意識をもって取り組めるように、オリエンテーションのページがある。 <p><資料について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・アニメを基にした教材がある。 ・いじめや人とのかかわりの教材は、「考え、議論する」ものとなっている。 ・運動会や友達との人間関係、情報モラル等児童の身近なものが教材となっている。 <p><表記・表現について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真や挿絵などの資料が大きく掲載してある。 ・本文に5行ごとに行番号がついている。 ・教材ごとに学習テーマが示されている。 		

平成30年度使用教科用図書 調査研究報告書

教科名	道 徳	教育出版 教出 17
<p><組織・配列・分量について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料数は29（内容項目1は5つ、2は5つ、3は7つ、4は3つ）。 ・組織、配列、分量が適当である。 ・大きさはAB版である。 ・指導の重点箇所ついて色分けしている。また、学習指導要領の4つの視点がマーク及び色で示されおり、目次や索引と連動している。 <p><内容について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容項目ごとに導入時の投げかけを設けており、児童がねらいを明確に把握できる。 ・資料は適度な分量であり、気持ちや考えを記入するところが設けられている。 ・ヒントのような記述や、順に考えることが書いてあり、児童が取り組みやすくなっている。 ・「学びの手引き」では複数の発問から取捨選択することができ、学びが深まるように工夫されている。 ・「ジャンプ」を設け、役割演技をすることによって、道徳的価値の理解を深めることを目指している。 <p><学習指導要領の教科の目標を達成するための工夫について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「考え、議論する道徳」の設定があり、効果的な工夫がされている。 ・体験を通して人としてのおこないについて考えを深める「スキル」が設定されており、実践化への手掛かりになるよう工夫されている。 <p><資料について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間行事と関連させた教材の配置が工夫されている。 ・偉人やスポーツ選手を扱ったもの教材がある。 ・変化に富んでおり、児童の興味・関心を喚起するようなものになっている。 <p><表記・表現について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・挿絵や字の大きさ、量、質ともに適当である。 ・表現が学年に応じて明確で、児童に理解しやすい。 ・題名の前に、学習テーマが明示されている。 		

平成30年度使用教科用図書 調査研究報告書

教科名	道 徳	光村図書 光村 38
<p><組織・配列・分量について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料数35 (内容項目1は9つ、2は9つ、3は12、4は5つ) ・組織・配列・分量が適当である。 ・大きさはB5版である。 ・各学年とも、題材のバランスがとれている。 ・考える視点が明記されている。 <p><内容について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入部には、課題を意識できるような問いかけが設定されている。 ・「考えよう」や「つなげよう」の欄が設けられており、授業の話し合いや実践化に向けての足がかりとなるように工夫されている。 ・「考え、議論する」道徳に向けて、考える項目が多くある。そこからつながる方向性も示してあり、児童が考える視点をつかみやすくなっている。 ・学習のまとめりごとに、「学びの記録」が設定されており、道徳で学んだことが、日常生活につながるよう工夫されている。 ・教材とコラムを組み合わせた「ユニット」が設けられており、自己の考え方を深めていけるよう工夫がなされている。 <p><学習指導要領の教科の目標を達成するための工夫について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学びの記録」や「つなげよう」に取り組むことで、学習の成果が積み重なり、可視化されることで道徳性を育むことができるとともに、実践力を高めることにもつながっていくようになっている。 <p><資料について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・偉人やスポーツ選手を扱った教材を取り入れている。 ・いじめ問題や情報モラルの扱いについては、教材とコラムを組み合わせた形式になっていて、まとまった内容を深めて考えられるように工夫されている。 <p><表記・表現について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな写真や絵、漫画形式の挿絵を掲載している。 ・キャラクターが学習の前の問いかけや学習後の広がりのためのヒントを示していて親しみやすい。 		

平成30年度使用教科用図書 調査研究報告書

教科名	道 徳	学校図書 学図 1 1
<p><組織・配列・分量について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料数35（内容項目1は10、2は9、3は10、4は6） ・文や絵の量、配列が適当である。 ・「読み物」と「活動」の2冊から構成されている。 ・4つの視点と内容項目ごとに分類してある。 ・「考えよう」「見つめよう」がマークで分けられている。 <p><内容について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「どうとくかつどう」ブックに活動マーク（かんがえよう・アクティブ）があり、考え議論できるように工夫してある。 ・考えを深めていく発問の記載がある。 ・オリエンテーションのページがあり、児童が進んで取り組める。 ・「活動」の最後に活動のヒントを示し、上手な話し方や聞き方の例が示されており討論の土台として指導の際に役立てられる。 ・「生命の尊さ」を、全学年を通して重点項目としている。 ・同じ内容項目の学習をすぐに思い出したり、内容項目ごとの自分の成長を振り返ったりできるように、道徳ノートとしての「活動」は内容項目になっている。 <p><学習指導要領の教科の目標を達成するための工夫について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・多面的、多角的な考えがもてるような活動を設定してあり、自己の生き方についての考えをより深められるようにしている。また、自ら振り返り、見つめ直す発問を入れることにより、今後に生かす態度を養うことができるようにしている。 <p><資料について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の身の回りのものが題材となった教材が多い。 ・教材の中には、児童に考えさせる場面が必ず入っている。 ・著作権や個人情報などについて、考えやすいように工夫されている。 <p><表記・表現について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・題材の内容に合わせてイラストを使用している、挿絵や写真の数が多く、大きい。 ・資料名の上に内容項目が具体的に示されている。 ・漢字にふりがながふってある。 		

平成30年度使用教科用図書 調査研究報告書

教科名	道 徳	日本文教 日文 116
<p><組織・配列・分量について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料数38（内容項目1は11、2は10、3は11、4は6つ） ・組織・配列・分量が適当である。 ・大きさはAB版である。 ・別冊の道徳ノートがあり、自分の考え等を書きこめるようになっている。 ・4つの視点と内容項目ごとに分けてある。 <p><内容について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・巻頭「道徳のとびら」で、内容項目について図示されており、道徳でどんなことを学習するのが明記されている。 ・「道徳の学び方」を示し、1. 気づく 2. 考える・深める 3. 見つめる・生かす とガイドしているので、子どもたちが道徳の授業に取り組みやすい。 ・別冊ノートがあり、資料ごとに具体的な問いかけに対して記述する箇所がある。 ・教材名の下に、前提条件、主な登場人物が記載されており、教材への見通しをもてる。 ・各資料の最初に道案内による問いかけがあり、何を考えてほしいのかが明確になっている。 <p><学習指導要領の教科の目標を達成するための工夫について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容は、各学年適切である。どの学年も道徳的価値に特化しており、教材文の後に「考えてみよう」と「見つめなおしてみよう」があるため、道徳ノートと連携して、より深く考え、生かす術を見つけることができる。 <p><資料について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真が効果的に使われている。挿絵が大きく、色が鮮やかである。 ・いじめやメール、生命尊重など社会問題にも多く触れており、児童に考えさせる内容になっている。 <p><表記・表現について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・表記が分かりやすい。 ・文章が読みやすいよう、行替えの位置が工夫されている。 ・内容項目について、児童にも一目で分かるような表し方と、説明がある。 		

平成30年度使用教科用図書 調査研究報告書

教科名	道 徳	光文書院 光文 208
<p><組織・配列・分量について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料数40（内容項目1は8、2は11、3は14、4は7） ・組織、配列、分量が適当である。 ・A4版に近い大きなサイズ。 ・道徳の学習にあたっての説明書きがある。 ・導入、展開、終末、発展と考える活動を促す紙面構成になっている。 <p><内容について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・巻頭にオリエンテーションのページがあり、道徳の授業の基本的な進め方が示されている。 ・各教材の始めに、この話を通して考えたいことや問いが示されている。 ・巻末の「学びの足あと」で振り返りができ、授業後の心の動きなどを記入していくことで、児童自らが成長を実感できるようにしている。 ・教材一覧に、重点主題教材が明記されている。 ・教材によって話し合いの方法とワークシートがあり、どのように話し合うかということが分かりやすい。 ・考えること・見つめることがきちんと表記してある。 <p><学習指導要領の教科の目標を達成するための工夫について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料の初めに見出しで、資料の目標が明確に分かるよう工夫されている。 ・考えるためのポイントや大切な見方が書いてあり、「何を考えるのか」ということが分かりやすく、児童の思考が深まるよう工夫されている。 <p><資料について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・時事問題や伝統文化、情報モラルやいじめ問題など、様々なものが取り上げられており、児童の興味関心も高まるとともに、児童が主体的に考えられるように工夫されている。 <p><表記・表現について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵や文の量は適量。挿絵がカラフルで見やすい。 ・内容項目について、児童にも分かるように記号とその説明が書かれている。 ・1～3年生は総ふりがなとなっている。脚注がついている。 		

平成30年度使用教科用図書 調査研究報告書

教科名	道 徳	学研教育みらい 学研 2 2 4
<p><組織・配列・分量について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料数35 (内容項目1は9つ、2は9つ、3は11、4は6つ) ・配列・分量が適当である。 ・大きさはA4版である。 ・教科書とワークが1冊になっている。 ・索引方法が目次ページと項目別ページの2種類があって、分かりやすい。 <p><内容について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料の最後に「考えようコーナー」があり、何を学んで欲しいかが明確である。また、討論の際に役に立つ。 ・「深めよう・つなげよう・やってみよう・広げよう」で自分をみつめ直し、考えを深めることができる。 ・主題名を本文中に記載していないので、内容を深められる。 ・教科書に書き込みをし、考え議論することができるような工夫がある。 ・教科書の中に記入する箇所が多く、導入やふり返りに生かせる。 ・教材に関係した詩や資料、ワークシートがついているものが多く、児童がより深く考え、理解できる。 <p><学習指導要領の教科の目標を達成するための工夫について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・主題名を本文に記載しておらず、児童自ら課題を発見し、解決する資質や能力を培うことを重視している。「深めよう」「つなげよう」「やってみよう」「広げよう」のページがあり、自己を見つめるきっかけとなる投げ掛けをしている。 <p><資料について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでと同じ教材と多く扱っている。 ・詩を基に考える教材、世界で活躍した人物、スポーツ選手等扱っており、児童に馴染みのある人物を多く取り上げている。 <p><表記・表現について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・文字が大きくて見やすい。 ・写真や挿し絵が多く、大きくてインパクトがある。 ・4つの視点がマークで示されており、一目で分かるようになっている。 		

平成30年度使用教科用図書 調査研究報告書

教科名	道 徳	廣濟堂あかつき 廣あかつき 2 3 2
<p><組織・配列・分量について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料数35（内容項目1は10、2は9つ、3は11、4は5つ） ・配列・分量が適当である。 ・自分で考えたことを主に記述する、道徳ノートが別冊でついている。 ・4つの視点を色分けしている。 ・多くても6ページとなる展開となっている。読む量として適切な量である。 <p><内容について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「考えよう・話し合おう」の部分で意欲をもてるようにしている。 ・「学習の道すじ」という学習の進め方を手助けするものがまとめられており、分かりやすい。また、児童一人でも学習が進めるように工夫されている。 ・題材ごとに、話し合いを考える視点が必ず表記されている。 ・教科書の後ろには、心に残っている授業の記録や心のしおり（先生や家の人に見てもらった記録）がある。 ・授業の学び方のページがあり、児童にとって取り組みやすい。 ・道徳ノートが別冊でついている、記録することで、日々の道徳の授業で児童の思いや考えを累積していくことができる。 <p><学習指導要領の教科の目標を達成するための工夫について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「考えよう 話し合おう」のまとめがあり、児童が何を考え、何をねらいとするのかということが自分で確認できるようになっているため、目標達成にむけた授業展開ができる。 <p><資料について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料がいろいろな話題で工夫されている。 ・日常生活に沿った内容のものがわかりやすく示されている。 ・先人の伝記や著名人、スポーツ選手を扱った資料が掲載されている。 <p><表記・表現について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字にはふりがながふってある。 ・表記・表現は、分かりやすい。 ・絵資料の色使いが薄く淡いものになっている。 		